

## 福井市との包括連携事業 令和元年度 保育研究合同発表会

幼児教育学科 准教授 乙部 貴幸

仁愛女子短期大学と福井市は包括連携協定（平成27年5月18日）のもと、様々な事業を実施してきました。令和元年度には、新たな取り組みとして、仁愛女子短期大学幼児教育学科と福井市子育て支援課の共催による「保育研究合同発表会（令和2年1月25日）」を開催いたしました。

従来、幼児教育学科では学生の学習成果を学外に発信する事業の一環として「幼児教育学科発表会」を行ってきました。また、福井市子育て支援課では、福井市内の公私立保育園が取り組んできた研究を発表し合う「保育研究発表会」を開催してきました。個別に行ってきたこれらの発表会を合同で開催し、保育者の卵である学生と現職保育者が一堂に会する事で、互いの学びをより広く、深くすることをねらいとして、共催することとしました。

発表会は、大きく分けて①学生・各保育所・こども園からの研究発表からなるポスターセッション、②福井市保育アドバイザーによる6つのミニレクチャー、③福

井市の研究指定園の研究内容から保育の質の向上について考えるシンポジウムの3つを柱に行われました。午前・午後を通した全体の参加者数は495人（学生・教員184名、現職者311名）でした。学生に対して行ったアンケートでは、「発表し質問していただいたことで、研究の足りないところを見つけることができた。またアドバイスも頂けて学びが多かった。」「現職者の取り組みを見て、また現職者と交流して、保育者の素晴らしさを実感し保育者になりたいという思いが強くなった。」といった前向きなコメントがあり、大変有意義な発表会となりました。

次年度以降も、より学びが広がり、深まる発表会にすべく、福井市と協議しながら実施していく予定です。



現職保育者によるポスター発表



現職者、学生の前でポスター発表を行う2回生



福井市治水記念館館長 平井博政氏によるミニレクチャー「自然や物を使った遊びを楽しもう」の様子。他に5つのミニレクチャーが同時に行われた。



シンポジウムにおける福井市研究指定園の話題提供の様子